

関西菌類談話会会報

1993年4月 No.13



目 次

表紙 [ベニテングタケ]	塚田 哲丸	1
関西菌類談話会1992年度総会報告	事務局	2
1992年度活動の記録 (下半期)	事務局	4
きのこ展を開く	吉見 昭一	8
猛毒テングタケ類の中毒とその毒消し	横山 和正	12
会員よりの便り (洋書購入の際のトラブルの例)	上田 俊穂	14
きのこ西東		15
関西菌類談話会会則		15
表紙によせて、きのこクイズの解答		16

関西菌類談話会 1992年度総会（第301回例会）報告

日 時 1993年2月6日（土）14：30～15：30

場 所 同志社女子大学デントン館

司 会 藤田博美氏

出席者 45名

1. 開会宣言 藤田博美氏
2. 開会挨拶 小原弘之会長
3. 議長選出 会長が岩瀬剛二氏に委嘱
4. 書記選出 会長が松井英幸氏に委嘱
5. 議 事

《1992年度報告》

1) 事務局からの報告（総務幹事 上田俊穂氏）

1. 1992年度の会員数

1991年末の会員数	515
1992年度中の入会者数	45
1992年度中の退会者数	7
1992年度中の除籍者数	13
1992年度末の会員数	540

2. 会員宛の郵便物

会報11, 12号, 1992年度行事予定表, シンポジウム案内, 事務局移転報告, 乗鞍高原観察・採集案内, きのこ展案内, スライド大会案内, 会費請求関係書類, 総会・講演会案内

3. 役員会を4回開催し, 主に次の様なことを検討した.

第1回役員会：乗鞍高原観察・採集関係／きのこ展関係／分類学講座・シンポジウムの内容／事務局の仕事の分散化／第300回例会について等

第2回：第300回例会／きのこ展関係／乗鞍高原観察・採集会／浜田先生追悼文集について等

第3回：乗鞍高原観察・採集会／1993・1994年度役員について／1993年度の事業と行事について等

第4回：1993・1994年度役員について／1993年度の事業と行事について／1993年度の予算案／高校生以下の会員の会費を来年度から半額（1000円）にすることについて／入会案内の改訂等

2) 1992年の行事報告（庶務幹事 下野義人氏）

第293回例会 5月17日（日）分類学講座（第17回）

「イグチ類の分類」

菌草研究所 長沢栄史氏

場所：滋賀大学 参加者53名

第294回例会 6月20日（土）シンポジウム

「菌根菌の栽培の現状と将来展望」

場所：同志社女子大学 参加者73名

第295回例会 7月12日（日）橿原神宮観察・採集会

参加者53名 100種採集

第296回例会 8月1日（土）～8月4日（火）

乗鞍高原観察・採集会

参加者79名 144種採集

第297回例会 9月6日（日）万博公園観察・採集会

参加者52名 27種採集

第298回例会 10月11日（日）比良山麓観察・採集会

参加者62名 98種採集

第299回例会 11月8日（日）大文字山観察・採集会

参加者60名 68種採集

第300回例会 12月13日（日）300回記念大会（スライド大会）

場所：同志社女子大学 参加者76名

第301回例会 2月6日（土）総会および講演会講演会

関西菌類談話会の歴史……………下野義人・山城日出夫

Inocybe chrysochra の観察 ……小林孝人・中谷文貴
きのこ見本の新しい作り方（透明ゲル封入見本）

……………鈴木 捷
オサムシタケの人工培地上での子実体形成

……………中谷文貴・横山和正

映画 きのこ……………シイタケ菌を探る, マツタケ子実体の成長と訪茸昆虫……………相良直彦・藤田博美氏紹介

3) 1992年の会計報告（会計幹事 北岸阿佐子氏）

〔収入の部〕 （単位：円）

	予算額	決算額
会 費	700,000	720,000
会場費	40,000	69,895
雑収入	50,000	262,024
繰越金	309,924	309,924
計	1,099,924	1,361,843

（雑収入の内, 104,021は特別会計よりの入金）

〔支出の部〕

	予算額	決算額
通信費	350,000	307,408
事務費	100,000	111,597

会場費	70,000	2,600
会議費	60,000	4,636
印刷コピー代	60,000	19,720
謝礼	60,000	98,551
会報印刷費	200,000	331,660
会報刊行諸経費	30,000	34,897
振替手数料	2,000	400
調査費	20,000	0
雑支出	10,000	250
予備費	47,924	0
事業準備金	100,000	204,000
計	1,099,924	1,115,719

[繰越] 246,124

(別途に事業準備金として、704,000の定額貯金)

4) 会計監査報告(会計監査 伊勢信子・志水杏子氏)
1992年度会計報告が正しいことを認めた。

5) 会報編集委員会報告(編集委員長 森本繁雄氏)
会報 No. 11 と No. 12 を編集・発行した。

以上1)～5)まで全て承認された。

《審議事項》

1) 会長の選出(総務幹事 上田俊穂氏)
事務局より、役員会の意向として新会長に小原弘之氏を推薦する旨報告したところ、賛成多数で承認された。
任期：1993年2月6日～1994年度総会の日まで。

2) 役員委嘱(小原弘之会長)

会長より、新役員として

副会長：吉見昭一

総務幹事：上田俊穂

会計幹事：北岸阿佐子・松井英幸

庶務幹事：下野義人・衣田雅人

運営幹事：天野典英・井坪豊明・熊田俊夫・佐々木久雄

鈴木雄一・橋屋 誠・丸本龍二・森本繁雄

森本 肇・横山和正・岩瀬剛二・藤田博美

会計監査：伊勢信子・西田富上夫

編集委員長：森本繁雄

編集委員：井坪豊明・岩瀬剛二・佐々木久雄・鈴木雄一

田中千尋・橋屋 誠・丸西靖恵

の各氏を委嘱したい旨提案があり、賛成多数で承認された。

任期：1993年2月6日～1994年度総会の日まで。

3) 1993年度行事計画(庶務幹事 下野義人氏)

第302回例会 5月9日(日) 分類学講座(第18回)

場所：京都植物園 演題、演者未定

第303回例会 6月19日(土) シンポジウム
場所：同志社女子大学デントン館
テーマ、演題、演者未定

第304回例会 7月11日(日) 観察・採集会
場所：櫃原神宮

第305回例会 7月25日(日) 観察・採集会
場所：宇治・興聖寺

第306回例会 8月21日(七)～8月24日(火)
観察・採集会 場所：乗鞍岳山麓

第307回例会 9月5日(日) 観察・採集会
場所：六甲山奥池

第308回例会 10月17日(日) 観察・採集会
場所：比良山麓

第309回例会 11月7日(日) 観察・採集会
場所：希望ヶ丘公園

第310回例会 12月12日(日) スライド大会
場所：田中神社

第311回例会 2月5日(土) 総会および講演会
場所：同志社女子大学デントン館

4) 1993年度会計予算(会計幹事 北岸阿佐子氏)

[収入の部] (単位：円)

会費	1,000,000
会場費	60,000
雑収入	80,000
繰越金	246,124
計	1,386,124

[支出の部]

通信費	380,000
事務費	120,000
会場費	50,000
会議費	50,000
印刷コピー代	50,000
謝礼	150,000
会報印刷費	350,000
会報刊行諸経費	40,000
振替手数料	2,000
調査費	50,000
雑支出	10,000
予備費	34,124
事業準備金	100,000
計	1,386,124

以上の内容が提案され、賛成多数で承認された。

5) 会則の改定 (総務幹事 上田俊穂氏)

最近の会員の平均年齢が高くなってきている。高校生以下の会員数も極めて少ないので、その年代層の増加を図るため会費を年額2000円から1000円に減額したい。また、各種行事の会場費を無料にしたい。そのため次の提案をする。

あ. 会則第15条の(1)の改訂(下線の部分を付け加える)

第15条 本会の会費は下記のように定める。

(1) 通常会員 年額 2,000円。ただし、高等学校生徒以下は年額 1,000円とする。

い. 下記の行事の(高等学校生徒以下の)会場費を無料にする。

分類学講座・シンポジウム・スライド大会・講演会・その他会長が認めた行事

以上の内容が賛成多数で承認された。

6. 閉会挨拶 小原弘之会長

追加事項 きのこ展の報告(吉見昭一氏)

10月10日(上)~13日(月) 京都府立植物園においてきのこ展が催された。入場者数6563名 260種展示

以上



1992年度 活動の記録(下半期)

第297回例会 万博記念公園観察・採集会

日 時: 1992年9月6日(日) 晴れ

52名参加

場 所: 大阪府吹田市万博記念公園内

(主に落葉広葉樹林)

参加者数より採集 種数の方が少ないという採集会も珍しいが、これも夏の暑さがまだまた残っていたせいで、乾燥した林内には、ほとんどのきのこがみられなかったのが残念だった。

(上田俊穂)

採集品リスト

- | | |
|-----------------------------------|------------|
| 1 <i>Marasmius</i> sp. | ホウライタケ属 |
| 2 <i>Amanita pantherina</i> | テングタケ |
| 3 <i>Amanita spissacea</i> | ヘビキノコモドキ |
| 4 <i>Agaricus</i> sp. | ハラタケ属 |
| 5 <i>Inocybe</i> sp. | アセタケ属 |
| 6 <i>Boletus umbriniporus</i> | コゲチャイロガワリ |
| 7 <i>Boletus violaceofuscus</i> | ムラサキヤマドリタケ |
| 8 <i>Boletus</i> sp. | ヤマドリタケ属 |
| 9 <i>Russula delica</i> complex | シロハツ近縁種 |
| 10 <i>Russula densifolia</i> | クロハツモドキ |
| 11 <i>Russula pectinatoides</i> ? | クシノハタケモドキ? |
| 12 <i>Russula cyanoxantha</i> | カワリハツ |
| 13 <i>Russula vesca</i> | チギレハツタケ |
| 14 <i>Russula mariae</i> | ニオイコベニタケ |
| 15 <i>Russula violeipes</i> ? | ケシヨウハツ? |
| 16 <i>Russula</i> sp. | ベニタケ属 |
| 17 <i>Lactarius subzonarius</i> | ニオイワチチタケ |

- | | |
|----------------------------------|-------------|
| 18 <i>Cantharellus</i> sp. | アンズタケ属 |
| 19 <i>Polyporus arcularius</i> | アミスギタケ |
| 20 <i>Polyporus badius</i> | アングロタケ |
| 21 <i>Coriolus versicolor</i> | カワラタケ |
| 22 <i>Coriolus hirsutus</i> | アラゲカワラタケ |
| 23 <i>Truncospora ochroleuca</i> | ウズラタケ |
| 24 <i>Ganoderma lucidum</i> | マンネンタケ |
| 25 <i>Elfvigia applanata</i> | コフキササルノコシカケ |
| 26 <i>Calvatia craniiiformis</i> | ノウタケ |
| 27 <i>Auricularia polytricha</i> | アラゲキクラゲ |

第298回例会 比良山観察・採集会

日 時: 1992年10月11日(日)

晴れ 62名参加

場 所: 滋賀県比良山元気村

秋のきのこシーズン真っ只中と言うことで、普段より多くの参加者で賑わった。比良山の裾野に広がるマツ林での採集であったが、きのこはこの時期にしては物足らない感じであった。それでも、ウラベニホテイシメジと間違えそうな柄が太い大型のクサウラベニタケが採れ、参加者の話題をさらった。また、珍菌のコウボウフデも採集された。採集品はこの後、京都植物園で開催中の『きのこ展』に陳列された。(佐々木久雄)

採集品リスト

- | | |
|---------------------------------|---------|
| 1 <i>Pleurotus pulmonarius</i> | ウスヒラタケ |
| 2 <i>Hygrophorus russula</i> | サクラシメシジ |
| 3 <i>Hygrophorus arbustivus</i> | コクリノカサ |

- 4 *Camarophyllus pratensis* ハダイロガサ
5 *Laccaria bicolor* オオキツネタケ
6 *Laccaria laccata* キツネタケ
7 *Laccaria vinaceoavellanea* カレバキツネタケ
8 *Clitocybe* sp. カヤタケ属
9 *Tricholomopsis rutilans* サマツモドキ
10 *Tricholoma saponaceum* ミネシメジ
11 *Armillariella mellea* ナラタケ
12 *Callistosporium luteoolivaceum* ヒメキンシメジ
13 *Collybia butyracea* ? エセオリミキ?
14 *Collybia butyracea* エセオリミキ
15 *Collybia fuscopurpurea* ? スミレホウライタケ?
16 *Collybia peronata* ワサビカレバタケ
17 *Collybia cookei* タマツキカレバタケ
18 *Strobilurus ohshimae* スギエダタケ
19 *Marasmius* sp. ホウライタケ属
20 *Mycena galericulata* クスギタケ
21 *Mycena haematopoda* チシオタケ
22 *Mycena pura* サクラタケ
23 *Amanita vaginata* var. *fulva*
カバイロツルタケ
24 *Amanita virosa* ドクツルタケ
25 *Amanita verna* ?? シロタマゴテングタケ??
26 *Amanita citrina* var. *citrina*
コタマゴテングタケ
27 *Amanita abrupta* タマシロオニタケ
28 *Amanita cokeri* f. *roseotincta* ??
ササクレシロオニタケ??
29 *Amanita* sp. テングタケ属
30 *Pluteus atricapillus* ウラベニガサ
31 *Pluteus* sp. ウラベニガサ属
32 *Macrolepiota* sp. カラカサタケ属
33 *Agaricus* sp. ハラタケ属
34 *Coprinus comatus* ササクレヒトヨタケ
35 *Coprinus* sp. ヒトヨタケ属
36 *Psathyrella velutina* ムジナタケ
37 *Psathyrella candolliana* ? イタチタケ?
38 *Psathyrella* sp. ナヨタケ属
39 *Naematoloma fasciculare* ニガクリタケ
40 *Inocybe geophylla* シロトマヤタケ
41 *Inocybe* sp. アセタケ属
42 *Cortinarius claricolor* var. *turmalis* ?
オオツガタケ?
43 *Cortinarius tenuipes* ニセアブラシメジ
44 *Cortinarius salor*
ムラサキアブラシメジモドキ
45 *Cortinarius violaceus* ムラサキフウセンタケ
46 *Cortinarius* sp. フウセンタケ属
47 *Gymnopilus liquiritiae* チャツムタケ
48 *Rhodophyllus rhodopolius* クサウラベニタケ
49 *Rhodophyllus crassipes* ウラベニホテイシメジ
50 *Paxillus involutus* ヒダハタケ
51 *Gomphidius roseus* オウギタケ
52 *Chroogomphus rutilus* クギタケ
53 *Suillus luteus* スメリイグチ
54 *Suillus bovinus* アミタケ
55 *Russula eburneoareolata* ? ツギハギハツ?
56 *Russula* sp. ニセクロハツ近縁種
57 *Russula compacta* アカカバイロタケ
58 *Russula emetica* ドクベニタケ
59 *Russula sanguinea* チシオハツ
60 *Russula* sp. ベニタケ属
61 *Lactarius quietus* チョウジチチタケ
62 *Lactarius chrysorrheus* キチチタケ
63 *Lactarius hatsudake* ハツタケ
64 *Lactarius* sp. チチタケ属
65 *Cantharellus infundibuliformis*
ミキイロウスタケ
66 *Cantharellus luteocomus* トキイロラッパタケ
67 *Lachnocladium schweinizii* ?? 和名なし
68 *Clavicornia pyxidata* フサヒメホウキタケ
69 *Ramaria botrytis* ホウキタケ
70 *Ramaria* sp. ホウキタケ属
71 *Ramaria* sp. ホウキタケ属 (ピンク)
72 *Ramaria* sp. ホウキタケ属 (黄)
73 *Gomphus floccosus* ウスタケ
74 *Hydnum repandum* カノシタ
75 *Hydnum repandum* var. *album* シロカノシタ
76 *Thelephora* sp. イボタケ属
77 *Albatrellus confluens* ニンギョウタケ
78 *Oligoporus tephroleucus* オンロイタケ
79 *Oligoporus* sp. オンロイタケ属
80 *Pycnoporus coccineus* ヒイロタケ
81 *Lenzites betulina* カイガラタケ
82 *Trichaptum abietinum* シハイタケ
83 *Daedaleopsis styracina* エゴノキタケ
84 *Daedaleopsis purpurea* ミイロアマタケ
85 *Astraeus hygrometricus* ツチグリ
86 *Battarrea japonica* コウボウフデ
87 *Calostoma japonicum* クチベニタケ
88 *Geastrum mirabile* ヒナツチガキ
89 *Calvatia craniiformis* ノウタケ

- 90 *Lycoperdon echinatum* アラゲホコリタケ
 91 *Lycoperdon perlatum* ホコリタケ
 92 *Lycoperdon pyriforme* タヌキノチャブクロタケ
 93 *Lycoperdon* sp. ホコリタケ属
 94 *Tremella foliacea* ハナビラニカワタケ
 95 *Calocera viscosa* ニカワホウキタケ
 96 *Chlorociboria aeruginascens*
 ロクショウグサレキンモドキ
 97 *Helvella macropus* var. *macropus*
 ナガエノチャワントケ
 98 *Aleuria aurantia* ヒイロチャワントケ

第299回例会 大文字山観察・採集会

日時：1992年11月8日（日）

晴れ 60名参加

場所：京都市左京区大文字山

参加者は、登山道沿いの雑木林や中腹の千人塚と呼ばれるマツ林などできのこを採集したが、収穫は期待したほどではなかった。この時期であれば、たくさん採れるはずのショウゲンジが数本しか見られず、昨年は採れていたムラサキシメジがなかったのは心残りであった。採集品の中では、ドウシントケやハイイロシメジ等が参加者の注目を集めた。（佐々木久雄）

採集品リスト

- 1 *Lentinus edodes* シイタケ
 2 *Hygrocybe aurantia* ヒメダイダイタケ
 3 *Laccaria amethystea* ウラムラサキ
 4 *Laccaria bicolor* オオキツネタケ
 5 *Clitocybe nebularis* ハイイロシメジ
 6 *Tricholoma flavovirens* キシメジ
 7 *Collybia* sp. モリノカレバタケ属
 8 *Panellus stypticus* ワサビタケ
 9 *Marasmius pulcherripes* ハナオチバタケ
 10 *Marasmius* sp.
 ホウライタケ属（ハリガネオチバタケ近縁）
 11 *Mycena galericulata* クヌギタケ
 12 *Mycena pura* サクラタケ
 13 *Xeromphalina caudicinalis*
 キチャホウライタケ
 14 *Amanita esculenta* ドウシントケ
 15 *Amanita virosa* ドクツルタケ
 16 *Amanita porphyria* コテングタケ
 17 *Psathyrella piluliformis* ムササビタケ
 18 *Psathyrella gracilis* ナヨタケ
 19 *Naematoloma sublateritium* クリタケ
 20 *Naematoloma fasciculare* ニガクリタケ
 21 *Psilocybe fasciata* アイセンボンタケ
 22 *Pholiota* sp. スギタケ属
 23 *Hebeloma sporiatum* アシナガヌメリ
 24 *Rozites caperata* ショウゲンジ
 25 *Cortinarius pseudopurpurascens*
 フウセンタケモドキ
 26 *Cortinarius azureus*
 ハイムラサキフウセンタケ
 27 *Cortinarius salor*
 ムラサキアブラシメジモドキ
 28 *Cortinarius* sp. フウセンタケ属
 29 *Dermocybe* sp. ササタケ属
 30 *Gymnopilus liquiritiae* チャツムタケ
 31 *Rhodophyllus rhodopolius* クサウラベニタケ
 32 *Rhodophyllus stauropsorus*
 ミイノモミウラモドキ
 33 *Suillus luteus* スメリイグチ
 34 *Boletus pulverulentus* イロガワリ
 35 *Russula metachroa* イロガワリシロハツ
 36 *Russula cyanoxantha* カワリハツ
 37 *Russula emetica* ドクベニタケ
 38 *Russula neoemetica* ドクベニダマシ
 39 *Lactarius chrysorrheus* キチチタケ
 40 *Lactarius* sp. チチタケ属
 41 *Clavulinopsis pulchra* カベントケ
 42 *Clavulinopsis helvola* キソウメンタケ
 43 *Mycoacia capelandii*? サガリハリタケ?
 44 *Hydnum repandum* var. *album* シロカノシタ
 45 *Polyporus alveolaris* ハチノスタケ
 46 *Microporus flabelliformis* ウチワタケ
 47 *Laetiporus versisporus* ヒラフスベ
 48 *Oligoporus tephroleucus* オシロイタケ
 49 *Pycnoporus coccineus* ヒイロタケ
 50 *Lenzites betulina* カイガラタケ
 51 *Coriolus versicolor* カワラタケ
 52 *Trichaptum abietinum* シハイタケ
 53 *Daedaleopsis styracina* エゴノキタケ
 54 *Daedaleopsis purpurea* ミイロアマタケ
 55 *Nigroporus vinosus* ブドウタケ
 56 *Lycoperdon perlatum* ホコリタケ
 57 *Lycoperdon spadiceum* キホコリタケ
 58 *Tremella foliacea* ハナビラニカワタケ
 59 *Auricularia polytricha* アラゲキクラゲ

- 60 *Neolecta vittelina* ヒメカンムリタケ
 61 *Ascocoryne cylichnium* ムラサキゴムタケ
 62 *Bisporella* sp. ビョウタケの仲間
 63 *Bisporella citrina* ビョウタケ
 64 *Helvella lacunosa* クロノボリリュウ
 65 *Isaria farinosa* ヨナサナギタケ
 66 *Xylaria polymorpha* マメザヤタケ
 67 *Isaria japonica* ハナサナギタケ
 68 *Lycogala epidendrum* マメホコリ (変形菌)

第300回例会 スライド大会

日時：1992年12月13日 (日)

76名参加

場所：同志社女子大学楽真館

談話会例会 300 回を記念して、会場を例年の田中神社から同志社女子大学へ移し、例会の前半に小原・本郷・吉見各氏による記念講演を行った。また今年のスライド大会では、昨年のかのこ展のビデオなども鑑賞した。(橋屋 誠)

記念講演 (敬称略)

1. 小原 弘之
『関西菌類談話会の初期のころ』
2. 本郷 次雄
『浜田稔先生を想う』
3. 吉見 昭一
『関西菌類談話会の歴史』

スライド大会

1. 佐野 修治
「京都御所のかのこ」
オオセミタケ・コレラタケ・ハタケシメジ・フウノミタケ・ヤナギマツタケ・ヒメテングノメンガイ
2. 吉見 昭一
「冬虫夏草と珍菌」
トビシマセミタケ・ヤマガタタンポタケ・シヤグマアミガサタケ・キアミズキンタケ・クラガタノボリリュウと顕微鏡写真
3. 松井 英幸
「今年のかのこ (朝日の森・清水山・乗鞍)」
オオワライタケ・アカヒダタケ・ニワタケ・シロオニタケ・コツブオオワカフサタケ・イスセンボンタケ・クサウラベニタケ

4. 相良 直彦
「浜田先生や大分県きのかのこのスライド」
浜田先生の思い出のスライド、大分県にあるきのかのこ川・ナガエノスギタケ
5. 鈴木 捷
「今年のかのこの見本」
カチオンに封入されたきのかのこの標本
キヌガサタケ・マルミノアリタケ・ツキヌケタンポタケ・ハナサナギタケ・シロナメツムタケ・クチベニタケ・ベニテングタケ・ホコリタケ・コガネタケ
6. 村上 康明
「テングタケ属のかのこ」
シロオニタケ・シロテングタケ・キタマゴタケ・ヘビキノコモドキ・タマゴテングタケ・ベニテングタケ
7. 杉山 信夫
「宇治あたりのあまり見られないきのかのこ」
カキノミタケ・クリノイガワソウタケ・アブラゼミから生えた冬虫夏草
8. 上田 俊穂
「むかしの思い出」
椿先生からの写真
京大芦生演習林での集合写真や山小屋・山崎先生と今関先生・滋賀大での同定会
富士山で見た野生きのかのこの販売風景・大山採集会での記念写真
9. 佐々木久雄
「マツ林のかのこなど」
カキシメジ・ヌメリイグチ・ハツタケ・シモコシ・カンバタケ・ハタケシメジ・JR野洲駅前芝生上のハラタケの菌輪・コウボウフデ・ニガクリタケ・ナラタケ
10. 服部 力
「西表・石垣の硬質菌」
ミナミレンガタケ・ミナミアシグロタケ・ハマキタケ・キヌハダタケモドキ・クロガネマンネンタケ・バライロアミタケ・ニセキツネノハナガサ・ウチワタケ
11. 森本 繁雄
「乗鞍・清水山のかのこ」
マルミノアリタケ・コチャダイゴケ・ヒカゲシビレタケ・テングタケダマシ・エノキタケ・ムジナタケ・ヤナギマツタケ・クチベニタケ・ノウタケ

きのこ展を開く

吉見昭一

1989年（平成元年）に続いて、1992（平成4年）10月10日～12日に京都府立植物園できのこ展を開催した。運営企画は植物園・京都園芸倶楽部・関西菌類談話会で実行委員会を特設し、三者主催の形で進めることになった。今回のきのこ展は『きのここと森林』がメインテーマで、植物園会館を会場に、いろいろなきのこの展示、質問を受けたりする相談コーナー、実際にきのこに触れてみる体験コーナー、書籍その他の販売コーナーを設けた。展示は、きのこの分類・生態ジオラマ・食毒きのこ・人工栽培・外国専門書・世界のきのこ切手などに分けた。分類コーナーは写真パネルを壁にかけ、採集されたきのこにラベルをつけ、整理したトレイに入れて展示した。生態コーナーはマツ林を模したジオラマを作り、マツタケなど数種のきのこを植えて生態展示をした。栽培コーナーでは、びん栽培・菌床栽培・床栽培・原木栽培など現物を置き、マンネンタケ・ヒラタケ・ブナシメジ・エノキタケの栽培を、写真やパネルを使ってわかりやすいように説明した。また今回、初めて粘菌類・地衣類を展示し、透明なバットの中では粘菌類の速い成長の運動や、顕微鏡では胞子体を観察できるようにした。さらに貴重な外国の専門書や世界のきのこ切手も併せて展示した。食用きのこでは、中国で人工栽培されたキシガサタケの乾燥品・野生の食用きのこ・世界のマツタケを展示し、また毒きのこでは、毒性別にランプ表示とする説明板を作り、その下に生の毒きのこも展示した。同時に「関西の毒きのこときこの中毒」のパンフを配ってきのこ中毒防止をはかった。会場は展示内容が多くて手狭だったが、見学者にとっては、きのこのいろいろな面にふれられ、有益な展示になったと思われる。きのこ展の開催期間は言うに及ばず、会場の設営・撤去・運営・採集・相談・管理など、のべ132名もの談話会会員の協力があってはじめてきのこ展を完了することができた。また植物園の方々の御協力や、京都園芸倶楽部の方々の「きのこ採集」もあって、はじめてこの大きなきのこ展が成功したことは云うまでもない。紙面を借りて深く感謝申し上げる次第である。

きのこ展期間中は、秋晴れに恵まれて初日早々

より大盛況で、3日間で約7000人の見学者であった。相談コーナーに押し寄せ矢継ぎ早に出される質問には、7人もの解答の会員も一時は汗だくの大奮闘となった。ふだんには気付かない生のきのこ・美しいきのこに目を見張り、立ち止まる見学者が多く、中毒きのこの説明を読みながら、「これがベニテングタケか！」とうなずくようにながめる人、粘菌の網の目のように広がる前で驚嘆する人など多様であった。見学者が多いためか室温が高くなり、1日で腐るきのこが続出して、新しく採集してきたきのこの入れ替えも大変なことであった。きのこ展の3日間で集められたきのこは、きのこの発生が少ない年であったにもかかわらず、約260種にもおよぶ素晴らしい展示となった。これだけきのこが集められたことに主催者側も驚くほどであった。関西をはじめ遠く東京・高知・大分・広島・石川・愛知などから来られた人も、集められたきのこの種類の多いのに驚いていた。アカマツ林のジオラマから匂ってくるマツタケの匂いに「本物だ！」と感心する人、「このマツタケは本物ですか？」と問い直す人、「世界各地にマツタケがあるとは思わなかった」と半信半疑に述懐する人もあった。

加えて3日連続で行われた講演では、小原弘之・谷口勉・本郷次雄各先生が話をされ、予約整理をするほどの盛況であった。聴講者の方々からは、美しく不思議なきのこの世界にふれて、またの機会を持ってほしいとされている。きのこ展への大きな期待とそれを果たすことは、菌類談話会の大きい一つの仕事と考え、今後もきのこ展のあり方を検討していかねばなるまい。

（京都市左京区北白川仕伏町9）

展示品リスト

- | | |
|----------------------------------|----------|
| 1 <i>Pleurotus ostreatus</i> | ヒラタケ |
| 2 <i>Pleurotus pulmonarius</i> | ウスヒラタケ |
| 3 <i>Lentinus lepideus</i> | マツオウジ |
| 4 <i>Lentinus edodes</i> | シイタケ |
| 5 <i>Lentinellus ursinus</i> | イタチナミハタケ |
| 6 <i>Hygrophorus russula</i> | サクランメジ |
| 7 <i>Camarophyllus pratensis</i> | ハダイロガサ |

8	<i>Hygrocybe conica</i>	アカヤマタケ	54	<i>Mycena haematopoda</i>	チシオタケ
9	<i>Hygrocybe suzukaensis</i>	シュイロガサ	55	<i>Mycena pura</i>	サクラタケ
10	<i>Hygrocybe cantharellus</i>	ベニヒガサ	56	<i>Mycena</i> sp.	クスギタケ属
11	<i>Hygrocybe psittacina</i>	ワカクサタケ	57	<i>Flammulina velutipes</i>	エノキタケ
12	<i>Lyophyllum decastes</i>	ハタケシメジ	58	<i>Amanita muscaria</i>	ベニテングタケ
13	<i>Lyophyllum sykosporum</i>	カクミノシメジ	59	<i>Amanita pantherina</i>	テングタケ
14	<i>Lyophyllum semitale</i>	スミゾメシメジ	60	<i>Amanita vaginata</i> var. <i>vaginata</i>	ツルタケ
15	<i>Laccaria amethystea</i>	ウラムラサキ	61	<i>Amanita vaginata</i> var. <i>fulva</i>	カバヒロツルタケ
16	<i>Laccaria bicolor</i>	オオキツネタケ	62	<i>Amanita hemibapha</i> subsp. <i>hemibapha</i>	タマゴタケ
17	<i>Laccaria laccata</i>	キツネタケ	63	<i>Amanita esculenta</i>	ドウシントケ
18	<i>Laecaria hieolor</i>		64	<i>Amanita virosa</i>	ドクツルタケ
19	<i>Laccaria</i> sp.	キツネタケ属	65	<i>Amanita verna</i>	シロタマゴテングタケ
20	<i>Lampteromyces japonicus</i>	ツキヨタケ	66	<i>Amanita citrina</i> var. <i>citrina</i>	コタマゴテングタケ
21	<i>Clitocybe clavipes</i>	ホテイシメジ	67	<i>Amanita volvata</i>	フクロツルタケ
22	<i>Clitocybe acromelaga</i>	ドクササコ	68	<i>Amanita abrupta</i>	タマシロオニタケ
23	<i>Clitocybe lignatilis</i>	ヒメシロタモギタケ	69	<i>Pluteus atricapillus</i>	ウラベニガサ
24	<i>Clitocybe</i> sp.	カヤタケ属	70	<i>Chlorophyllum molybdites</i>	オオシロカラカサタケ
25	<i>Clitocybe</i> sp.	カヤタケ属	71	<i>Chlorophyllum</i> sp.	オオシロカラカサタケ属
26	<i>Lepista sordida</i>	コムラサキシメジ	72	<i>Macrolepiota neomastoidea</i>	コカラカサタケ
27	<i>Lepista</i> sp.	ムラサキシメジ属	73	<i>Macrolepiota procena</i>	カラカサタケ
28	<i>Tricholoma giganteum</i>	ニオウシメジ	74	<i>Macrolepiota</i> sp.	マントカラカサタケ
29	<i>Tricholoma saponaceum</i>	ミネシメジ	75	<i>Macrolepiota alborubescens</i>	イロガワリシロカラカサタケ
30	<i>Tricholoma japonicum</i>	シロシメジ	76	<i>Macrolepiota</i> sp.	カラカサタケ属
31	<i>Tricholoma matsutake</i>	マツタケ	77	<i>Leucoagaricus rubrotinctus</i>	アカキツネガサ
32	<i>Tricholoma psammopus</i>	カラマツシメジ	78	<i>Leucocoprinus birnbaumii</i>	コガネキスカラカサタケ
33	<i>Armillariella mellea</i>	ナラタケ	79	<i>Agaricus abruptibulbus</i>	ウスキモリノカサ
34	<i>Armillariella tabescens</i>	ナラタケモドキ	80	<i>Agaricus praeclaresqiamosus</i>	ナカグロモリノカサ
35	<i>Leucopaxillus giganteus</i>	オオイチョウタケ	81	<i>Melanophyllum echinatum</i>	アカヒダカラカサタケ
36	<i>Melanoleuca melaleuca</i>	コザラミノシメジ	82	<i>Lepiota cygnea</i>	シロヒメカラカサタケ
37	<i>Pleurocybella porrigens</i>	スギヒラタケ	83	<i>Lepiota acutesquamosa</i>	オニタケ
38	<i>Collybia maculata</i>	アカアザタケ	84	<i>Lepiota castanea</i>	クリイロカラカサタケ
39	<i>Collybia butyracea</i>	エセオリミキ	85	<i>Cystoderma japonicum</i>	オオシワカラカサタケ
40	<i>Collybia dryophila</i>	モリノカレバタケ	86	<i>Cystoderma amianthinum</i>	シワカラカサタケ
41	<i>Collybia peronata</i>	ワサビカレバタケ	87	<i>Phaeolepiota aurea</i>	コガネタケ
42	<i>Collybia confluens</i>	アマタケ	88	<i>Coprinus comatus</i>	ササクレヒトヨタケ
43	<i>Collybia</i> sp.	モリノカレバタケ属	89	<i>Coprinus atramentarius</i>	ヒトヨタケ
44	<i>Panellus stypticus</i>	ワサビタケ	90	<i>Psathyrella velutina</i>	ムジナタケ
45	<i>Panellus serotinus</i>	ムキタケ	91	<i>Psathyrella candoliana</i>	イタチタケ
46	<i>Strobilurus ohshimae</i>	スギエダタケ			
47	<i>Marasmius androsaceus</i>	オチバタケ			
48	<i>Marasmius pulcherripes</i>	ハナオチバタケ			
49	<i>Marasmius siccus</i>	ハリガネオチバタケ			
50	<i>Marasmius cohaerens</i>	ミヤマオチバタケ			
51	<i>Marasmius</i> sp.	ホウライタケ属			
52	<i>Mycena galericulata</i>	クスギタケ			
53	<i>Mycena polygramma</i>	アシナガタケ			

- 92 *Psathyrella obtusata* コナヨタケ
93 *Psathyrella piluliformis* ムササビタケ
94 *Psathyrella* sp. ナヨタケ属
95 *Agrocybe arvalis* タマムクエタケ
96 *Agrocybe farinacea* ツバナシフミヅキタケ
97 *Agrocybe erebia* ツチナメコ
98 *Agrocybe cylindracea* ヤナギマツタケ
99 *Stropharia aeruginosa* モエギタケ
100 *Stropharia rugosoannulata* f. *lutea* キサケツバタケ
101 *Naematoloma sublateritium* クリタケ
102 *Naematoloma fasciculare* ニガクリタケ
103 *Pholiota nameko* ナメコ
104 *Pholiota* sp. スギタケ属
105 *Pholiota terrestris* ツチスギタケ
106 *Pholiota flammans* ハナガサタケ
107 *Pholiota astragalina* アカツムタケ
108 *Pholiota spumosa* キナメツムタケ
109 *Inocybe fastigiata* オオキヌハダトマヤタケ
110 *Inocybe geophylla* シロトマヤタケ
111 *Inocybe lutea* キイロアセタケ
112 *Inocybe* sp. アセタケ属
113 *Hebeloma crustuliniforme* f. *microsporum* コツブオオワカフサタケ
114 *Hebeloma sacchariolens* ヒメワカフサタケ
115 *Hebeloma* sp. ワカフサタケ属
116 *Hebeloma sporiatum* アシナガヌメリ
117 *Hebeloma* sp. ワカフサタケ属
118 *Rozites caperata* ショウゲンジ
119 *Cortinarius tenuipes* ニセアブラシメジ
120 *Cortinarius* sp. フウセンタケ属
121 *Cortinarius nigrosquamosus* オニフウセンタケ
122 *Cortinarius azureus* ハイムラサキフウセンタケ
123 *Cortinarius salor* ムラサキアブラシメジモドキ
124 *Cortinarius pseudosalor* ヌメリササタケ
125 *Cortinarius violaceus* ムラサキフウセンタケ
126 *Gymnopilus spectabilis* オオワライタケ
127 *Gymnopilus liquiritiae* チャツムタケ
128 *Crepidotus badiofloccosus* クリゲノチャヒラタケ
129 *Clitopilus prunulus* ヒカゲウラベニタケ
130 *Rhodocybe roseivallanea* イナバノウラベニタケ
131 *Rhodophyllus nidorosus* コクサウラベニタケ
132 *Rhodophyllus rhodopolis* クサウラベニタケ
133 *Rhodophyllus staurosporus* ミイノモミウラモドキ
134 *Rhodophyllus crassipes* ウラベニホテイシメジ
135 *Gomphidius roseus* オウギタケ
136 *Chroogomphus rutilus* クギタケ
137 *Strobilomyces strobilaceus* オニイグチ
138 *Suillus pictus* ベニハナイグチ
139 *Suillus spectabilis* キノボリイグチ
140 *Suillus grevillei* ハナイグチ
141 *Suillus luteus* スメリイグチ
142 *Suillus granulatus* チチアワタケ
143 *Suillus bovinus* アミタケ
144 *Chalciporus piperatus* コショウイグチ
145 *Tylopilus chromapes* アケボノアワタケ
146 *Tylopilus eximius* ウラグロニガイグチ
147 *Leccinum scabrum* ヤマイグチ
148 *Russula adusta* コゲイロハツタケ
149 *Russula compacta* アカカパイロタケ
150 *Russula sororia* キチャハツ
151 *Russula mariae* ニオイコベニタケ
152 *Russula castanopsidis* カレバハツ
153 *Russula emetica* ドクベニタケ
154 *Russula sanguinea* チシオハツ
155 *Russula kansaiensis* ヒナベニタケ
156 *Russula pseudointegra* シュイロハツ
157 *Lactarius* sp. チチタケ属
158 *Lactarius quietus* チョウジチチタケ
159 *Lactarius violascens* ウズハツ
160 *Lactarius akahatsu* アカハツ
161 *Lactarius hatsudake* ハツタケ
162 *Cantharellus cibarius* アンズタケ
163 *Cantharellus luteocomus* トキイロラッパタケ
164 *Clavariadelphus ligula* コスリコギタケ
165 *Clavulina cristata* カレエダタケ
166 *Clavicornia pyxidata* フサヒメホウキタケ
167 *Ramaria* sp. ホウキタケ属
168 *Ramaria fumigata* ウスムラサキホウキタケ
169 *Ramaria* sp. ホウキタケ属
170 *Gomphus floccosus* ウスタケ
171 *Gomphus purpuraceus* オオムラサキアンズタケ
172 *Xylobolus spectabilis* モミジウロコタケ
173 *Sparassis crispa* ハナビラタケ
174 *Phanerochaete crossa* カミウロコタケ
175 *Pulcherricium caeruleum* アイコウヤクタケ
176 *Plicaturopsis crispa* チヂレタケ
177 *Hydnum repandum* カノシタ

- 178 *Mycoleptodonoides aitchisonii* ブナハリタケ
- 179 *Auriscalpium vulgare* マツカサタケ
- 180 *Thelephora multipartita* キブリーボタケ
- 181 *Thelephora* sp. イボタケ属
- 182 *Phellodon niger* タロハリタケ
- 183 *Hydnellum conrescens* チャハリタケ
- 184 *Boletopsis leucomelas* クロカワ
- 185 *Albatrellus dispansus* コウモリタケ
- 186 *Albatrellus confluens* ニンギョウタケ
- 187 *Polyporus alveolaris* ハチノスタケ
- 188 *Polyporus badius* アシグロタケ
- 189 *Microporus flabelliformis* ウチワタケ
- 190 *Cryptoporus volvatus* ヒトクチタケ
- 191 *Grifola frondosa* マイタケ
- 192 *Laetiporus sulphureus* var. *miniatus* マスタケ
- 193 *Piptoporus soloniensis* シロカイメンタケ
- 194 *Oligoporus tephroleucus* オシロイタケ
- 195 *Oligoporus fragilis* シミタケ
- 196 *Pycnoporus coccineus* ヒイロタケ
- 197 *Lenzites betulina* カイガラタケ
- 198 *Daedalea dickinsii* ホウロクタケ
- 199 *Trametes palisotii* チリメンタケ
- 200 *Coriolus versicolor* カワラタケ
- 201 *Coriolus brevis* ニクウスバタケ
- 202 *Coriolus subradiatus* ウラギンタケ
- 203 *Bjerkandera adusta* ヤケイロタケ
- 204 *Daedaleopsis styracina* エゴノキタケ
- 205 *Daedaleopsis purpurea* ミイロアマタケ
- 206 *Daedaleopsis tricolor* チャカイガラタケ
- 207 *Truncospora ochroleuca* ウズラタケ
- 208 *Fomitopsis pinicola* ツガサルノコシカケ
- 209 *Fomes fomentarius* ツリガネタケ
- 210 *Ganoderma lucidum* マンネンタケ
- 211 *Ganoderma neo-japonicum* マゴジャクシ
- 212 *Elfvigina applanata* コフキサルノコシカケ
- 213 *Cyclomyces fuscus* ワヒダタケ
- 214 *Onnia vallata* アズマタケ
- 215 *Inonotus mikadoi* カワウソタケ
- 216 *Phellinus* sp. ネンドタケ属
- 217 *Astraeus hygrometricus* ツチグリ
- 218 *Scleroderma areolatum* ヒメカタショウロ
- 219 *Scleroderma citrinum* ニセショウロ
- 220 *Pisolithus tinctorius* コツブタケ
- 221 *Calostoma japonicum* クチベニタケ
- 222 *Melanogaster intermedius* アカダマタケ
- 223 *Nidula niveo-tomentosa* コチャダイゴケ
- 224 *Crucibulum laeve* ツネノチャダイゴケ
- 225 *Geastrum triplex* エリマキツチグリ
- 226 *Geastrum saccatum* フクロツチガキ
- 227 *Calvatia craniiformis* ノウタケ
- 228 *Vascellum pratense* ヒメホコリタケ
- 229 *Lycoperdon perlatum* キツネノチャブクロ
- 230 *Lycoperdon pyriforme* タスキノチャブクロ
- 231 *Lycoperdon spadiceum* キホコリタケ
- 232 *Lycoperdon purpurascens* クロゲチャブクロタケ
- 233 *Lysurus mokusin* var. *typicus* ツノツマミタケ
- 234 *Phallus impudicus* スッポンタケ
- 235 *Dictyophora indusiata* キスガサタケ
- 236 *Dictyophora duplicata* マクキスガサタケ
- 237 *Kobayasia nipponica* シラタマタケ
- 238 *Tremella fuciformis* シロキクラゲ
- 239 *Tremella foliacea* ハナビラニカワタケ
- 240 *Tremella fimbriata* クロハナビラニカワタケ
- 241 *Auricularia polytricha* アラゲキクラゲ
- 242 *Onygena corvina* ホネタケ
- 243 *Penicillioopsis clavariaeformis* カキノミタケ
- 244 *Cudonia helvelloides* クラタケ
- 245 *Spathularia flavida* ヘラタケ
- 246 *Ciborinia rufocornea* ニセキンカクアカビョウタケ
- 247 *Leotia lubrica* f. *lubrica* ズキンタケ
- 248 *Ascoclavulina sakaii* クチキトサカタケ
- 249 *Chlorociboria aeruginosa* ロクショウグサレキン
- 250 *Galiella celebica* オオゴムタケ
- 251 *Sarcoscypha occidentalis* ベニチャワンタケモドキ
- 252 *Helvella crispa* ノボリリュウタケ
- 253 *Cordyceps sobolifera* セミタケ
- 254 *Cordyceps formicarum* マルミノアリタケ
- 255 *Cordyceps nutans* カメムシタケ
- 256 *Cordyceps heteropoda* オオセミタケ
- 257 *Cordyceps* sp. シロマキセミタケ
- 258 *Cordyceps oxycephala* トガリスズメバチタケ
- 259 *Cordyceps owariensis* ハヤカワセミタケ
- 260 *Xylaria polymorpha* マメザヤタケ
- 261 *Xylaria perisicaria* フウノミタケ
- 262 *Xylaria magnolia* ホソツクシタケ
- 263 *Isaria takamizusanensis* ミンミンゼミバリセンボン
- 264 *Sepedonium chrysopermum* (子のう世代 *Hypomyces*)

猛毒テングタケ類の中毒とその毒消し

横山和正

昨年11月にドクツルタケと思われる猛毒きのこを食べて、中毒死する事件が大阪であった(図1)。新聞によると、10月20日に野菜いためにして食べ、翌日激しい下痢。府内の総合病院に搬送されたが、28日後の11月16日夜に死亡した。新聞からは食べた量はわからないが、ドクツルタケなら大きなものを1本食べても死亡する。

日本には猛毒のテングタケ類としてドクツルタケ、シロタマゴテングタケ、タマゴテングタケが知られている。また、タマゴタケモドキ、コテングタケモドキなどのテングタケ科のきのこや、コレラタケ(ドクアジロガサ)なども同じ毒を含む猛毒のきのこではないかと考えられている。

猛毒テングタケ類の毒成分はアマニチンなどを主成分とするアマトキシン類、ファロトキシン類、及びピロトキシン類の3種類に大別される。いずれもポリペプチドで、ドクツルタケにはこの3種類の毒が含まれ、食べて2、3日以内に適切な処置を施さないと死亡する。適切な処置とは、入院し、吐剤、下剤の投与、胃内洗浄、浣腸などにより毒物を消化管より取り除いたり、下痢による水分低下には水分の補給、血糖の低下にはブドウ糖の静脈注射を日に4-5回行ったり、血液のバランスの確保、血液透析などである。

これらの猛毒テングタケ類の中毒に対しては、チトクロームc、チオクト酸(thioctic acid)、シリマリリン(silymarin)などある種の物質が、動物実験で解毒効果があることは報告されてはいたが、臨床学的にはほとんど効果が認められなかった。

チャン先生たちは我が国特産のミズキ科の植物であるアオキから抽出された成分アウクビン(aucubin: オークビンとかアオクビンともよばれる)にその効果があることを見だし、新聞に見るようにマウスに対し実験を行い、効果を上げている(図2)。

アオクビンのことを新聞では、糖類と記しているが、正確に加水分解すると、D-グルコースとアウクピゲニン $C_6H_8O_3$ というイリドイドを生じるので、イリドイド配糖体(iridoid glucoside)とよばれている。アオクビンはマウスに対する致

死量はマウスの体重1kgに対し、1gで、実際上は毒性はないと考えられている(Chang, I-M. & Yoon, H. S.: The 3rd International Mycol. Congress. Abstract. p. 35, 1983)。

今後の研究の一層の進展を期待したい。

ヨーロッパでは猛毒テングタケ類中毒にたいしパスチアン法という新しい方法が、採用され良好な成績を上げている。

私は、毒性試験講座16(地人書館1992)の中でこの方法を紹介したことがあるが、まだ日本では余り一般化していない。

フランスの医師 Bastien が、1971年と1974年に猛毒のタマゴテングタケを自ら試食し考案した治療法で、現在、猛毒テングタケ類にたいし最も有効な方法と思われるので紹介したい。

彼は1971年にタマゴテングタケを1本試食したが、ビタミンC注射をしなかったので強い肝炎にかかった。1974年には4本(65g)食べた。今度は下痢はしたが、肝炎にはかからず、3日間で完全に回復した。この経験をもとに彼は次のような治療法を考案した。

猛毒テングタケ類を食べた直後の3日間の食事と治療法は次のとおり。

1. ビタミンC 1g を朝と夕方静脈注射する。

1992年(平成4年) 11月18日(水曜日) 言説 55



図1 大阪府でのきのこ中毒死を報じる読売新聞

古生花被亜綱(雑辨花類) Archichlamydeae

ミズキ科 Cornaceae

アオキ 桃葉珊瑚(青木)

Aucuba japonica Thunberg

(植物) 山中に自生した葉蘭類に培養される常緑木である。葉は有柄、革質、長楕円形で縁鋸歯状、鋭尖頭である。雌雄異株。円錐花序は頂生し春に紫褐色の単性花を開く。核果は楕円形で紅熟する。

アオキはわが国の特産植物で欧米で薬材として栽培するため種子を多量に輸出するが 1783 年 John Graeber によって英国に運んだのが初めてである。当時は用木だけであったが探訪が美しく常緑であったためロンドンの各地に移植された。次で Robert Fortune はその種本を得るためにはるばる日本に来てこれを英国に輸出した。アオキが園芸植物として特に英国で普及したのは耐寒性常緑樹で露地で越冬し難く耐える点である。

(成分) 全植物: Aucubin $C_{28}H_{44}O_6$ (配糖体) を含む。含炭は糖

子中に最も多く(約 3%)。葉および茎がこれに次ぐ⁽¹⁾⁽²⁾。胚乳中に含まれるが、内果皮および外果皮には含まない⁽³⁾。



糖: 蔗糖, マンナン, ガラクタン, ペントサン等⁽⁴⁾

(薬用) 民間: 都府県を巡って流布して火傷および創傷面に塗布した葉を揉んで腫物を熱布する。奈良県吉野郡御用(ドコカフ)の名所、陀羅尼助(健胃苦味薬)はもとも煎剤の水煎乾燥エキスであるがその色沢をよくするためしばしばアオキの葉を加えエキスに乾燥するといわれる。

- 1) Bourquerot, Herissay: *Compt. rend.* 134, 1441 (1902); 138, 1114 (1928)
- 2) M. Bergmann, G. Michals: *Ber. UO.* 935 (1927); 阿木達夫, 近藤浩嗣: 薬誌 49, 679 (1928)
- 3) 服部静夫, 栗原康: *Miscellaneous Reports of the Research Institute for National Resources* No. 17-18, 163 (1950); 森繁新一郎, 服部静夫, 久保田尚志, 桑田真三郎: 化誌 73, 776 (1952)
- 4) Champenois: *Compt. rend.* 133, 855 (1901); Bourquelot: *J. Pharm. Chim.* 18, 241 (1903)
- 5) P. Karrer, H. Schmidt: *Helv. Chim. Acta* 29, 525 (1946); 中村慶二, 佐藤敏郎, 森繁新一郎: 化誌 74, 821 (1953); S. Fujise, H. Obara, H. Uda: *Chem. & Ind.* 1960, 289

図3 アウクビン(刈米達夫・木村雄四郎著, 和漢薬用植物, 広川書店, 1967年改稿第9版より)

バスチアン法の詳細は彼自身が国際会議で発表した時の模様が次の本に紹介されているのでご覧いただきたい。Faulstich, H., Kommerell, B. and Wieland, Th. 編, "Amanita Toxins and Poisoning". Verlag Gerhard Witzstrock. p. 246. 1980.

この本は1978年11月1日～3日に Heiderberg で開催された『国際テングタケ会議』(International Amanita Symposium)の結果をまとめたもので、講演の後の質問と討論も収録されている。

無名の一開業医の彼が発表した後の討論を読むと、彼のやり方は、論理性がないとか無謀だとか、大学の研究者達からは大変冷たい対応をされていることが、ありありと出ている。しかし、あえて自らの命をかけた貴重な実験にいどんだ、彼の勇気をたたえたい。

京都新聞の切り抜きは、本会会員の北村宗明氏が事務局に送ってくださった。また、読売新聞の記事とアウクビン(図3)に関しては上田俊穂氏からいただいた。山浦氏、チャン先生とは以前から毒きのこに関して、共同研究をしていたので、アウクビンと猛毒テングタケ類の毒消しに関して、簡単に解説させていただいた次第です。

(滋賀県大津市平津 滋賀大学教育学部)

キノコ毒消す物質
アオキと呼ばれる木から抽出された糖類に、毒キノコの毒に対する解毒作用があることを長野県衛生公害研究所の山浦由郎主任研究員とフウル大天然物科学研究所の浪日武所長らがつき止めた。

アウクビンと呼ばれる分子数約三五〇の糖類。山浦研究員らは、大人一人がわずか三〜四本食べただけで肝不全に陥る毒キノコの一つで、日本でも毎年数人の死者を出しているドクツルタケを使い動物実験した。この結果、ドクツルタケを食べて三十分二時間、六時間後にアウクビンを投与された動物は、おう吐は

どの症状があったものの、翌日には回復。何も投与しなかつた動物は、三日目に肝不全で死亡した。

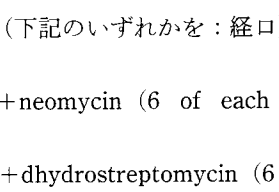


図2 アウクビンの解毒作用を報じる京都新聞

2. 消毒薬として(下記のいずれかを:経口)服用する。

nifuroxazid+neomycin (6 of each a day)

nefuroxazid+dihydrostreptomycin (6 of each a day)

3. 2日以降は lactic fernments

4. 最初の2日間の唯一の食べ物、すりつぶしたニンジン (mashed carrots)

5. もし患者がひどく嘔吐するような時は metaclopramid の筋肉注射

要するに、猛毒テングタケ類の毒により破壊された肝臓などのミトコンドリアと細胞の膜などを、ビタミンCと抗生物質でバクテリアから守り、再生をはかる。食べ物としてはヨーグルトのようなものや、すりつぶしたニンジンなどを食べると良い、ということではないかと理解している。それも食後3日以内なら助かるが、手遅れになると死亡する可能性が強い。

彼はヨーロッパ各地を自分の身体で人体実験をしながら巡回し、彼の方法を広めた。以前、私の研究室に来られたスイスのクレマンソン先生もスイスで実際に公開実験を見たといっておられる。

メディカルトリビューンの1981年11月19日号によると、フランスでは11の地域の毒物センターでこの治療法が採用され、ナンシーのセンターでこの方法で治療した50例中、46例が完全に回復したと報じている。また、死亡した4例中3例は症状が現れてから48時間以上たってからセンターに運ばれたものという。きのこを食べて3日以内に治療するかどうかが、生死を分けるといえる。

会員よりの便り

洋書購入の際のトラブルの例

上田 俊穂

洋書の購入の事で以前に記事が載りましたが、トラブルについての私の経験を書きます。

1. 学生時代（大昔の事です）、研究室に入りしていた丸善という本屋のセールスマンが、“気に入れば購入してほしい”と、ある本をおいで帰りました。研究室ではその本を公費で購入することになりました。価格は5000円でした。私はその本が気に入る、個人的に欲しくなったので、すぐそのセールスマンに1冊注文しました。やがてその本が到着して請求書をみますと、5500円という値段になっていました。値段の違いを追及しますと、あれこれと言訳をならべたて埒があかず、結局面倒になってその値段で買ってしまいました。

個人には高く売りつける丸善に不信感を持ち、以後は利用しなくなりました。

2. そういう事があったので、出版社に直接問い合わせて買うことにしました。アメリカのハフナーという出版社に、いきなり手紙を書いて値段と送料を知らせてもらい、銀行で小切手を作って送金しました。本が到着してやれやれと思ったのも束の間でした。本を調べてみると、索引の部分が4ページ破り取ったようになっていました。それをその出版社にどのように抗議しようかと思っているうちに月日が経ち、他の研究室にあった同じ本をコピーして貼りつけて泣き寝入りしました。今では容易なコピーも、当時はなかなか大変な仕事でした。

個人で出版社相手に本を購入することはなかなか大変だということで、アカデミア洋書という取扱店に頼むことにしました。

3. そして、そこからあるドイツの本を買いました。今度は破れているところもなく、興味があるところだけを見て安心していました。後にその本のある人に貸しましたところ、8ページ落丁していると教えられ、「またか」と驚きました。しかし、購入してからかなりの月日が経過しており、自分の興味のない部分でもあり、諦めも加わってそのままになっています。

4. 次は、同じ洋書扱店からスイスの本を買ったときの事です。使用中に何か奇妙な文章があり、あわてて乱丁・落丁の検査をしました。するとまたしても数ページの落丁がありました。今度はそ

の事を詳しく書いて善処してくれるよう扱店に頼みました。すると、そこから詫言状が来て、かなりの日数が経過してから、スイスのクリプトという見知らぬ会社から重い荷物が届きました。不審に思っけて開けてみますと、落丁していた例の本の完全なもの1冊と、多数の本のカタログが入っていました。また、落丁本の返送は不要だとの事で大いに喜びました。落丁している部分をコピーで補い、他の人にあげました。以後、クリプト社を利用することがふえました。

5. そのクリプト社から東ドイツの図鑑を買ったときの事です。送られてきた本をすぐに点検しますと、またもや異状発見です。かなりのページにわたって、製本の糊の付着による破れ等がある、「きず物」が送られてきました。そこで早速その事を異状部分のコピーも添えて連絡したところ、返品はしなくていいから「扉」のページを切り取って送ってくれとのことでした。そうしましたところ本が送られてきました。そこでページを繰って点検です。すると、な、なんと今度は裁断ミスページがかなり含まれているではありませんか。これには全く驚いてしまいましたが、もう文句をいうのが面倒になってそのまま友達にあげてしまいました。

6. アメリカの本も欲しくなりましたが、遠回りしてスイスから買うより安くなるのではないかと、出版社に注文しました。すると、その出版社ではなく（アメリカの）取扱店から本と送料を知らせてきましたので、外国為替で送金しました。ところが半年以上経っても何の連絡もありません。またしても、辞書を片手に慣れない抗議の手紙をやっとの思いで書きましたところ、何やら言訳と共に正常な本が送られてきて胸をなで降ろしました。

他にも、数冊まとめて注文したところ、請求書に記載されているのに、現物が梱包されてなかったこともありました。

どうもこういう経験が多くて不思議です。とにかく、本が到着したらすぐに注文したものであるかどうか、乱丁、落丁、その他の異状がないか等をよく調べ、異状があれば面倒がらずにすぐに詳しく扱店に連絡することでしょう。下司の勘ぐりかも知れませんがそういうことをしないと、不良品を日本に送っても気付かれないとばかりに、意図的に日本に廻しているのかもしれないと思いたくもなりません。国内の洋書扱店で買うと、そういうときに対処するのが楽です。

皆さんがお持ちの洋書も一度点検されてはいかがでしょう。

.....

きのこ西東

前号に引き続き、1993年3月現在本会が保管している寄贈された書籍や各会の会誌、会報の類を列挙します。保管場所は滋賀大学教育学部生物学教室、横山和正氏研究室です。

関西菌類談話会蔵書一覧（前号に続く）

- ・山菜・きのこ・木の実 フィールド日記／1992／水野伸彦著／山と溪谷社
- ・きのこの本／1992／松川仁著／丸善株式会社
- ・熊本のきのこ／1992／熊本きのこ会／熊本日日新聞社
- ・1992-1993 Catalogue Fungi Perfecti

- ・日本の毒キノコ150種／1992／小山昇平著／ほおずき書籍
 - ・山菜（山溪フィールドブックス⑤）／1992／木原浩著／山と溪谷社
 - ・夢自然きのこ1／1992／山と溪谷社
 - ・きのこ講話（14）／熊本きのこ会
 - ・青森県きのこ会会報／創刊号（1989）、第2号（1990）、第3号（1991）、第4号（1992）／青森県きのこ会
 - ・くさびら（神奈川キノコの会会報）第14号（1992）／神奈川きのこの会
 - ・つちぐり（日本菌学会東北支部会報）第8号（1992）／日本菌学会東北支部
 - ・きのこ通信-1992年日本きのこ協会発足記念号（No.16）／日本きのこ協会事務局、グループきのこ星雲
 - ・どうしん第2号（1992）／新潟きのこ同好会
- （順不同）

関西菌類談話会会則

【名称】

第1条 本会は「関西菌類談話会」（以下「本会」と称する。英語名を KANSAI MYCOLOGICAL CLUB とする。

【事務局】

第2条 本会の事務局は、総務幹事の所属するところにおく。

【目的】

第3条 本会はきのこ、かび、酵母など菌類に興味を持つ人が、菌類を通して自然に親しみ、菌類の調査・研究・利用・保護等のために、お互いに協力しつつ、知識・情報・技術等の交流を計ることを目的とする。

また、会員相互の親睦と菌類についての啓蒙を行う。

【事業】

第4条 本会は上記の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 菌類の野外観察会・採集会
- (2) 菌類の同定または鑑定会
- (3) 菌類の同定・分類・生理・遺伝・生態・利用等に関する講演会・講習会・研究会・展示会・研修旅行
- (4) 「関西菌類談話会会報」の発行
- (5) 菌類の分布調査・標本作成・分離・培養・資料などの作成と会員への配布
- (6) 他の関連団体との交流
- (7) その他本会の目的達成に必要な事業
- (8) 本会の事業年度は毎年1月1日より12月31日迄とする

【会員】

第5条 本会員は菌類に興味をもつ個人および本会の目的に賛同する団体により組織する。

第6条 本会の会員は下記のように定める。

- (1) 通常会員 第15条(1)に定める会費を納入する個人
- (2) 賛助会員 本会の目的に賛同し、第15条(2)

に定める会費を納入する団体に

- (3) 名誉会員 本会にとくに功勞のあった者
- (4) 会友 上記以外で本会が必要と認めた者

【入会および退会】

第7条 本会に入会を希望するものは、所定の入会申込書に必要事項を記入し、当該年度の会費を添えて本会事務局に申し込むこととする。

また、退会する者は、その旨文書で本会事務局へ届け出ることとする。

【役員および任務】

第8条 本会は次の役員をおく。

- (1) 会長1名 本会を代表し、会務を統括する。また、総会および役員会を召集し、その議長および書記を委嘱する。
- (2) 副会長2名 会長を補佐し、会長に事故ある時はその任務を代行する。
- (3) 総務幹事1名 事務局を担当し、本会の受付事務全般を行う。
- (4) 庶務幹事2名 庶務全般を行う。下記については分担する。
 - イ 採集会事務
 - ロ 集会事務
 - ハ 会員名簿および図書・備品管理
- (5) 会計幹事2名 会計事務を行う。下記については分担する。
 - イ 経理・現金出納事務
 - ロ 会費請求・領収事務
- (6) 運営幹事若干名 本会の事業の立案、実施を行う。運営幹事中に集会総括責任者、採集会総括責任者、会報編集委員長各1名をおく。
- (7) 会計監査2名 会計事務の監査を行い、総会においてその結果を報告する。

【世話人および顧問】

第9条 本会運営のため必要に応じて世話人を置くことができる。

第10条 本会は必要に応じて顧問を若干名置くことができる。

【役員会】

第11条 役員会は会長の召集する会員をもって構成する。

【役員などの選出および任期】

第12条 (1) 会長は会員の推薦にもとづき、総会で出席者の過半数の賛成をもって選出する。

(2) 副会長、その他の役員は会長が委嘱する。ただし、副会長は会長が必要とする場合にのみ委嘱することができる。また、会報編集委員若干名を、会報編集委員長の推薦に基づき、会長が委嘱する。

(3) 役員および世話人・編集委員の任期は2年とする。ただし、再選を妨げない。

(4) 役員に欠員が生じた場合はその補欠を行う。ただし、補欠された役員の任期は前任者の残任期間とする。

【総会】

第13条 総会は年1回会長が召集し、役員選出、予算、決算ならびに本会の事業実施上の重要事項について、出席者の過半数をもち議決する。

総会の議長および書記は会長が会員中から各1名を委嘱する。会長が必要かつ緊急と認めた場合には、臨時に総会を開くことができる。

【経費】

第14条 本会の経費は会費、寄付金、預貯金利息その他をもってこれにあてる。

【会費】

第15条 本会の会費は下記のように定める。

(1) 通常会員 年額 2000円。ただし、高等学校生徒以下は年額 1000円とする。

(2) 賛助会員 年額 5000円

第16条 会費は前納制とする。ただし、一度納入した会費は返還しない。

会費は2年間納入しない場合は退会したものと見做す。

第17条 講演会、採集会その他の集会において、必要に応じて参加者から参加費を徴収し、必要経費にあてることができる。

第18条 本会の会計年度は毎年1月1日に始まり、12月31日に終る。

【会報】

第19条 (1) 会員には会報を無償で配布する。

(2) 会報編集委員長は、会報編集委員会を構成し、会報の編集を行う。

【付則】

第20条 (1) この会則の改正および本会の事業実施上の改廃は、役員会で審議し、総会において出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

(2) その他、本会則に定めのない問題は、役員会において処理し、総会に報告し承認を得る事とする。

(3) 本会則は昭和58年10月8日より施行する。
(昭和61年2月1日一部改正、同日より施行)
(平成2年2月4日一部改正、同日より施行)
(1990年2月3日一部改正、同日より施行)
(1992年2月8日一部改正、同日より施行)
(1993年2月6日一部改正、同日より施行)

【お詫びと前号の解答】

前号でのきのこクイズでは、発刊および発送等の都合上、会員の皆様のお手元に届いた時には既に締め切り日が過ぎておりました。全面的にこちらのミスです。お詫びします。なお、紙面の都合上今号はきのこクイズを休みます。

第1問 難易度 ★★★★★

タマウラベニタケ

Rhodophyllus abortivus

第2問 難易度 ★★★

ウスキキヌガサタケ

Dictiophora indusiata f. lutea

第3問 難易度 ★

マンネンタケ

Ganoderma lucidum

第4問 難易度 ★★

ウラベニホテイシメジ

Rhodophyllus crassipes

表紙によせて

夏から秋にかけてのシラカバ林に菌輪をつくって、ベニテングタケ発生する。関西ではその美しい姿を日にすることはなく、無理をして信州方面などへと思わずでかけてしまう。お金のかかるきのこである。

表紙写真 塚田哲丸 文 森本繁雄

関西菌類談話会会報 No. 13

1993年4月15日 印刷

1993年4月15日 発行

編集 関西菌類談話会会報編集委員会

発行 関西菌類談話会

発行所 関西菌類談話会

事務局 〒567 大阪府茨木市春日2-1-2

大阪府立春日丘高等学校 上田俊穂 気付

電話 (呼) 0726-23-2061

振替 大阪 5-83129

印刷所 中西印刷株式会社

〒618 京都市上京区下立売通小川東入る